

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401151		
法人名	有限会社 ウジヤト		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一度ホームでパン教室を開催しております。皆さんで生地を計量したり、こねたりし、毎回できたてのパンに舌鼓を打たれております。また、このパン教室には町内会の方々も参加していただき、なかには、利用者様の名前を覚えてくださる方もおり、今後も皆様とのつながりを大事にしていきたいとおもいます。また、ホームでは猫を2匹飼っており、猫の鳴き声を聞くと子供や孫に話し掛けているかのように穏やかな口調となり、アニマルセラピーの効果ではないかと猫好きのスタッフも喜んでいるところです。ちなみに、猫の名前は利用者様それぞれ好きな名前と呼んでいるようです・・・。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/JigvosvoBasicPub.do">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/JigvosvoBasicPub.do</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は函館市と北斗市をつなぐ大野新道を挟み津軽海峡を望む場所に立地している。近隣には北海道大学水産学部のキャンパスと、閑静な住宅街との中に、同母体組織が運営する事業所と隣り合わせにこのグループホームのぞみがある。統括施設長はじめ管理者は、特に地域住民との繋がりに力を入れて来た。地域住民が多数参加し、利用者と協働で作業をする月1回開催のパン教室は6年目を迎えるなど、積み重ねが実を結び災害対策の住民参加協力にも繋がっており、良好な関係作りができている。又、職員は明るく穏やかで家庭的な雰囲気を出し、利用者の笑顔の多さから、居心地の良さが表れている。更に事業所ではアニマルセラピーとして猫が2匹飼われており、世話や接することで利用者の楽しみやQOLの向上にも繋がっている。医療面でも充実しており、現在まで2名の事業所内での看取りを経験している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とした、「ゆとりある快適な生活環境を提供し、ノーマライゼーション理念のもとで心身ともに健やかに自立した人生を全うできるように、その環境・年齢及び心身の状況に応じ、地域において必要な福祉サービス総合かつ包括的に提供されるように援助することを目的とします」を作成し、玄関の入り口やリビングに掲示し、個々で確認しながら実現に向けて取り組むよう心掛けている。	地域に触れあう、つながりを大切にし、利用者ひとり一人が快適に健やかに日々を過せるよう、統括施設長始め全職員が理念を共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し物(カラオケ教室・絵手紙教室)、夏祭りに参加させて頂いたり、ホームで毎月行なわれるパン教室や避難訓練等に町内会の方たちに参加して頂くなど、交流の機会を作っている。	月1回のパン教室には、地域住民複数名参加し、利用者と協力するなど夏祭り、盆踊り、月2回のカラオケ大会など、地域の一員として交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	パン教室に地域の方がたに参加して頂くことや、カラオケ教室などに利用者様が参加させて頂くことで認知症の方への理解を徐々に得ていると思われる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに行なわれる運営推進会議では、ご家族や町内会の方にも参加して頂き、意見、アドバイスなど頂き、サービス向上に活かせるよう職員全体で取り組んでいる。	2ヶ月毎の運営推進会議は当初のメンバーであり、欠席者複数の場合、意見より報告がおもになっている。又家族代表から出された「AEDがあれば」これは早速設置された。	メンバーは、町内会員、婦人会員、消防署員、福祉関係者等、積極的に働きかける努力と、AEDは地域の方々にも使用可能とした運営者の考えを町内会に通知し地域で共有されるよう期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで保健所の担当者などに事業所の取り組みなどを報告し、アドバイスを頂きながら取り組んでいる。	運営推進会議以外でも、保健所の関係者及び福祉事務所担当者との情報交換を行い、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの禁止行為を正しく理解できるよう定期的に会議などで話し、又、研修などの機会があれば参加し、職員全体へ報告を行い、全体での理解に努めている。又、夜間は安全面を考慮し、ご家族からの了承を得て、夜8:00時以降は施錠をしている。	3ヶ月に1度「身体拘束委員会」が主となり、利用者の身体現状を見直し、拘束・虐待に当たる行為の有無を話し合い、正しく理解出来るよう積極的に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎月行なわれるユニット会議で身体拘束について話しあい、あわせて、虐待にあたる行為はないか再確認等を行っている。又、3ヶ月ごとに、「身体拘束廃止委員会」を開催し、ユニット間で情報交換を行い取り組んでいる。			

グループホームのぞみ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や、成年後見制度に関する研修などが行なわれた際には参加し、ユニット会議で報告等を行い、職員全体で理解し支援の機会には活用できるよう取り組んでいる。現在においては制度を活用される方がいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に、ご本人や家族にホーム内を見学して頂き、理解、納得して頂けるよう説明をし、契約時には、利用料、医療連携体制、入居にあたっての留意事項など、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には入居者様の様子を報告すると共に、ご家族の要望や意見を話して頂けるような機会をつくり、頂いた意見などはその後改善できるよう会議などで話し合いを行なっている。又、玄関には意見箱、玄関フロア入り口には苦情処理についての文章を掲示している。	運営推進会議に於いて家族より要望されたAEDの設置など、迅速に取り入れるなど、常に家族の意見を聞く態勢にあり、ユニット会議運営が原点となり運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議やユニット会議で意見や提案を聞き、施設長や社長に提案している。	スタッフ会議の意見は主任会議～運営者を含む管理者会議を経て、月1回の全体会議の中で更に検討され、運営に反映される仕組みをとっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎朝の申し送りや、定期的な職員とのコミュニケーションにて状況を把握し、各職員が意欲的に働くことが出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修ファイルを作り、常に研修に有無を職員全体で共有し、自らの希望や代表者や管理者の指示にて研修を受ける機会を作り一人ひとりの技術、知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道GH協議会が開催する勉強会などに参加し同業者と会う機会はある。今後は相互訪問等の機会をつくれるよう努力していきたい。		

グループホームのぞみ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人に会ってお話を聞かせてもらい、ホームはどんな所か説明し不安を取り除けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントと合わせてご家族の要望や心配事を聞かせてもらい、一緒に考えていく事で信頼関係を築いていっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約をとる時点でお話を聞き、緊急性など見極め、待機の間他どんなサービスがあるのか説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、一緒に掃除や洗濯、調理など本人ができることを積極的に行なえるようにし、ご本人が得意なことは教えてもらったりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や、毎月の手紙などで近況を報告し、何かあった時は電話連絡を行い、問題があれば一緒に考えいける体制をとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでもできる体制で、本人が行きたいと思っている所には個別に支援を行なっている。	馴染みの美容院や、通いなれた商店街などへの送迎、友人宅への法事など、支援に努めているが、昔馴染みが事業所へ訪問することはない。	家族が事業所訪問時に、近所の仲良かった友人もさそわれて、馴染みの良い関係が継続されるように支援される事を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行なえるレクリエーションを行ったりして交流を深めたり、お互いに出ることを行なうことで支えあって生活している。座席なども関係を把握してトラブルが起こらないようにしている。		



グループホームのぞみ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、入院先へお見舞いに行ったり、ご本人の経過等を聞きながら、ご家族との関係も大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活パターンを把握したり、ご家族より情報を得て、希望に沿えるよう職員全体で日々努力している。	常に声かけを意識し、利用者の言葉や表情から、思いや意向を読み取るよう努めている。利用者の生活習慣、リズム、日々の過ごし方など希望に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	ご家族に協力をお願いし、情報収集しながら馴染みの暮らしを継続できるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々入居者様の状態を観察し、アセスメントを行いながら、自立への支援を行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、入居者様が日々より良い生活をして頂くために、ご本人やご家族の希望を収集し、又、主治医からの支持などを反映した計画を作成できるようユニット会議で職員全体で話し合いを行ない作成している。	利用者2名に職員1名が担当となり、毎月1回のユニット会議にて情報を交換している。家庭連絡ノート、受診ノート、申し送りノートにより、個人の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は介護計画を活かすことができるよう各職員が具体的な報告や記入を行い、連絡、受診、家族ノートに記入し、確認している。会議などではそれらをもとに検討しながら介護計画に活かせるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の団楽やコミュニケーションの中から入居者様からの希望を聞きだすと共に、ご家族へ状況を説明し希望等を速やかに取り入れることができるよう職員間の連絡を密にし、介護計画に反映し柔軟な支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域へホームの情報を伝え、理解を広げるよう働きかけを行なっている。又、定期的に消防士立会いのもと避難訓練を行っており、その際は近隣、町内会の方にも協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医を確認した上で、協力医療機関などの説明(2週間ごとの内科往診、皮膚科往診等)を行っており、利用契約前のかかりつけ医を希望される際は受診等の支援を行なっている。	家族の当日の状況により、受診の付き添い等柔軟に支援している。他に複数の協力医が訪問診療しており、夜間対応も十分確保され、家族の安心感につながっている。	

グループホームのぞみ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、協力病院から看護師が訪問し血圧測定、採血などの健康管理を行っており、その際に入居者の状態などを伝え、アドバイスや、受診の指示などを頂いている。又、入居者の状態に応じた医療機関への受診の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった際には職員が生活状況、身体、精神状況を伝えている。又、定期的に面会に行き病院関係者より入居者の状態等を確認し、早期退院へ向けた相談等をご家族も含め行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホームのぞみ 看取りに介護に関する指針」を作成し入居時に説明等を行っており、入居時点でのご家族の考え等を聞かせてもらっている。	入居契約時に事業所で出来ることを説明し、方針を確認し合っている。過去2名の看取り経験が、医師、家族、看護師、職員の自信となり、チームでの共有体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を作成し全職員への周知を徹底している。今後は訓練等も行いながら急変時への対応に備えていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っており、その際は消防、町内会、ご近所の方も参加して下さっている。又、夜間を想定しての訓練も行っており、その際の緊急の連絡体制等も整っている。	年2回、日中、夜間想定訓練を実施している。地域住民への働きかけが功を奏し、10名ほどの住民の参加・協力につながった。万が一を考慮し、毛布等の準備を検討中。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が入居者一人、ひとりのこれまでの生活や、思いを尊重し、常に私達の人生の先輩であるという思いを忘れず日々支援をさせて頂いている。	利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応や言葉かけに全職員が注意し合い、トイレ誘導の際もさり気なく声がけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人、ひとりの心身の状態の把握に努め、やりたい事、希望を話せる環境作りを心掛けている。又、訴えることが困難な方には日々の関わりの中から思いを汲み取れるよう日々努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人、おひとりの生活のペースを把握し、その人にあつた声掛け、支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へ出掛け、カット、髪染などご本人の希望を聞き支援行なっている。又、行事の際は女性入居者への化粧の支援なども行なっている。		

グループホームのぞみ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	医療面に食事の制限のある方は、本人に説明を繰り返し行い、納得していただけるよう努める。また昼食・夕食は利用者の出来ることを考慮しながら一緒に準備や調理を行い、利用者・スタッフが一緒に食卓を囲み楽しく食事を摂取していただけるよう心掛けている。	利用者の好みや希望が反映された献立は、1年を通した献立係が担当し、準備・片付けなど利用者、職員が協働で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の食事量の確認や一日の水分量の確認に努めている。食事内容に関しては献立委員を配置し栄養のバランスや季節の物を取り入れ日々のメニューを作成している。食事・水分量が少なかったり、体重の増減が見られた場合は、御家族や医師に相談しながら利用者の状態に合わせ、おかゆ、キザミ、ミキサー食などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	毎食後の口腔ケアや定期的な義歯の洗浄にて清潔保持に努めている。また口腔内の異変時には歯科医院に往診に来ていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等を作成し個々の排泄状態の把握を行っている。状態に合わせた誘導や、時間帯での声掛けを行い、トイレにて気持ちよく排泄していただけるよう介護計画を作成している。また、失敗時には本人の自尊心を損なうことがないよう配慮しながら清潔保持に努める。	個々の排泄状態を把握し、気持ちよくトイレにて排泄できるよう誘導している。おむつ使用者も徐々に減り、笑顔が多くなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認、毎日の体操、個人に合わせて牛乳や野菜、食物繊維の食べ物等排便を促しやすい飲食物を摂っていただいている。又、便秘がひどい方にはかかりつけ医へ相談し便秘薬使用等の対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後が入浴の時間になっているが、入浴の時間(午前中)や間隔(毎日や〇日おき)は利用者の希望に合わせて心地よく入浴していただけるように支援している。	通常、週3日となっているが、利用者の希望により毎日入浴も可能である。夕食後入浴は行われてないが、同性介護支援を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人や御家族から生活習慣(就寝や、起床時間、昼寝など)を教えていただき、個々の睡眠時間は職員全体で把握すると共に、また不眠の場合は、その状況に応じて話を傾聴し、安眠できるような促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の「与薬一覧表」を作成し、都度の確認を行っている、また薬の管理も利用者の手が及ばない場所へ保管し、内服薬の紛失、誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活からそれぞれ得意なこと・出来そうなことを観察し、個々の状態に合わせた家事作業を行っている。またスタッフとの買い物や・外出・町内会の催しもの・美容室・散歩などをして頂き支援を行っている。		

グループホームのぞみ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出(買い物、散歩、美容室など)希望時にはできるだけ希望に沿えるよう職員間で連携し支援を行っている。どうしても希望時に外出できない時は本人にその旨を説明し外出の日を決めて、理解、納得して頂けるよう心掛けている。又、こちらから外出の機会をつくり、支援を行なっている。	日々個々に買い物、ドライブ、散歩、外食などは家族も一緒に同行し、より良い個別支援につながっている。ユニット毎の計画先は、車椅子のまま大沼公園、函館山等遠方にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からの希望がある場合はご家族と相談の上にお金を所持して頂き、買い物や、自動販売機での飲み物の購入をして頂き、その際は商品の選択、レジでの支払いなども見守りや、一部支援を行いながら出来るだけ本人に行なって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望をされる方には取次ぎの介助や、見守りを行いながら自由に電話を利用して頂いている。手紙に関しては、希望者はいないが、ホームに届いた手紙は希望があれば本人に呼んで聞かせるなどの支援を行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や光の入り方など、利用者の意見を取り入れ自由に調節できるよう配慮している。又、家庭菜園を行っており、水やりや収穫と一緒に季節感を感じて頂けるよう支援行なっている。	広く明るい共用空間は、すべてバリアフリーで、清潔である。アニマルセラピーの為に飼われている猫2匹は、利用者により自由な名をつけられ可愛がられ、壁には季節感を採り入れた利用者の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの構造上、一人になれる空間はなく、各居室やリビングにある座敷、または、事務所にて過ごしていただいている。又、食卓での座席や、リビング内では利用者同士の相性も考慮し安心して頂けるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族と相談しながら在宅時にしようしていた家具や写真などを持ってきて頂き自由に設けて頂くことで居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。	居室は一人ひとりの個性が良く出た居心地の良いものになっている。思い出の品や使い馴れた品々が配置されゆったりとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のドア横、廊下、トイレ、浴室、階段などに手すりを設置、又、浴室内や階段に滑り止めを設置している。各居室の前に表札などの目印を設置したり、トイレの前には表示を大きく、見やすくするよう工夫している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401151		
法人名	有限会社 ウジヤト		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一度ホームでパン教室を開催しております。皆さんで生地を計量したり、こねたりし、毎回できたのパンに舌鼓を打たれております。また、このパン教室には町内会の方々も参加していただき、なかには、利用者様の名前を覚えてくださっている方もおり、今後も皆様とのつながりを大事にしていきたいとおもいます。また、ホームでは猫を2匹飼っており、猫の鳴き声を聞くと子供や孫に話し掛けているかのように穏やかな口調となり、アニマルセラピーの効果ではないかと猫好きのスタッフも喜んでいるところです。ちなみに、猫の名前は利用者様それぞれ好きな名前前で呼んでいるようです・・・。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/JigvosyoBasicPub.do">http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/JigvosyoBasicPub.do</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4階		
訪問調査日	平成22年12月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「ゆとりある快適な生活環境を提出し、ノーマライゼーション理念のもとで、心身ともに健やかに自立した人生を全うできるようにその環境・年齢及び心身の状況に応じ、地域において必要な福祉サービスを総合的かつ包括的に提供されるように援助することを目的とします。」を作成している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し物に参加させて頂いたり月1回のパン教室に町内会の方たちに参加していただき交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議に町内会や包括支援センターの方に参加して頂き地域の状況、ホームの状況など情報交換をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の受診状況や行事などの活動報告を行っておりホームの取り組みについて理解、把握してもらい、意見を頂き職員で話し合いを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも福祉事務所や保健所の担当者と関わる機会を大切にし、相談や確認など市町村との連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度身体拘束廃止委員会による会議を行い入居者様の現状を見直し拘束や虐待に当たる行為がないか話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を受けたり、月1回のユニット会議で勉強会を行い学ぶ機会を持っている。		

グループホームのぞみ2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在において、地域権利擁護事業や成年後見制度を必要とされる方がいないため、活用する機会はない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料や医療連携体制、入居にあたって留意事項など契約書や重要事項説明書に基づいて説明を行っている。入所前にもホーム内を見学していただき、雰囲気などを実際に見ていただき理解・納得していただけるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なじみの関係作りに取り組み、なんでも話すことが出来るよう取り組んでいる。また日々の会話の中や表情・行動にて意見や不満を読み取ることが出来るよう観察している。利用者から意見などが聞かれた際は日々の申し送りや毎月のユニット会議にて検討している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、意見や提案が反映できるよう会議にて話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎朝の申し送りや、定期的な職員とのコミュニケーションにて状況を把握し、各職員が意欲的に働くことが出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修ファイルを作り、常に研修に有無を職員全体で共有し、自らの希望や代表者や管理者の指示にて研修を受ける機会を作り一人ひとりの技術、知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北北海道GH協議会が開催する勉強会などに参加し同業者と会う機会はある。今後は相互訪問等の機会をつくれるよう努力していきたい。		

グループホームのぞみ2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には事前にホーム内の見学をしていただき、スタッフ、他入居者、ホーム内の雰囲気を感じていただけるよう努めている。ご本人と話す機会を設け不安に思っていることや、今後の希望、要望を聞き、安心して入居の日を迎えられるに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談を行いご家族の不安や要望などを聞く機会を設け、御家族、本人共に安心して入居いただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用開始段階で、相談の時間を作り対応し本人が必要とするサービスがあれば、本人、御家族に助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人や家族から行なえることを教えていただき、自然に行なえる環境を設定し本人が行えることを他入居者や職員と一緒にやり暮らしを共有する関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に電話や連絡、御家族来所時に近況報告を行い月1回のご家族への手紙、クリスマス会、敬老会、誕生会などご家族と本人が楽しむことができる行事を企画している。その際、ご家族の思いを受容し協力関係を築く努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人の情報、生活暦を活用し、できるだけ本人のそれまでの生活を維持し馴染みの美容室や買い物等の外出支援、家庭菜園などを行なえるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の利用者の表情・言動を観察し、利用者同士の関係を把握するよう努めている。レク、体操など、利用者同士が交流を図れる機会を増やしスタッフ間に入り利用者同士が係わり合い支えあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した入居者、ご家族様の経過を把握し必要に応じ相談や助言を行うよう努めている。また、お見舞い等こまめに足を運ぶよう努めている。		



グループホームのぞみ2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向、ご家族からの情報、日々のコミュニケーションから本人の希望や思いを汲み取り、把握に努め出来る限り対応している。意思疎通が困難な場合は日々の表情観察、ご家族からの情報を得て本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネージャーから暮らしの情報収集を行い、生活の中での本人とのコミュニケーションの中で生活歴や馴染みの環境等情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、御家族から教えていただくと共に職員全員で日々の利用者の観察を行い、1日の過ごし方、心身の状況、有する力などの把握に努め、本人の負担にならないかを常に確認しながら出来ることを行なっていたい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員にて本人ご家族の希望、要望を収集し毎日の申し送りや毎月のユニット会議にて情報交換を行い、担当職員、計画作成担当者を中心とし、介護計画の見直し作成を行い実行に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に関しては介護計画を中心に反映することができるよう各職員がそれぞれ具体的な報告、記入を行っている。また連絡、病院受診、家族連絡ノートに詳しく記入し全職員が確認し情報を共有している。会議時には個別記録をもとに全職員にて検討し介護計画の見直し、作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のコミュニケーションから本人の希望・要望を聞きだすと共に、ご家族へ状況を説明し、意見要望を速やかに取り入れ、職員間の連絡を密にし柔軟な対応を行なえるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域の施設、近隣の方、警察、消防町内会の方々へ情報を伝えホーム内の情報を提供することで理解、協力を得られるよう働きかけを行なっている。		

グループホームのぞみ2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用相談時にかかりつけの病院や医師を確認すると共に、協力病院の紹介と説明を行い入居者のかかりつけ医を本人、ご家族と相談し希望にそった医療を受けることができるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していないがかかりつけ病院と連携を図り都度指示を頂いている。また、週に1度往診とは別にかかりつけ病院の看護師による採血、注射、血圧測定などを行っており、特変時には相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、職員が付き添い、生活状況、身体状況、精神状態を報告している。本人が安心できるように定期的に面会へ行き、本人、家族、病院関係者との情報交換、相談を行なっている。退院が決まった際には、病院関係者と職員にて引継ぎを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の相談、契約時に事業所でできることを説明し、方針を確認している。その後、本人の状態に応じて家族とかかりつけ医、看護師、全職員にて、方針を共有し支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催し知識の向上に努めている。緊急時の事故対応マニュアルを作成している。利用者の急変や事故発生時の応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内で日勤帯、夜勤帯で火事や地震を想定し定期的に避難訓練を行っている。また近隣の方や御家族町内会の方々へ避難訓練に参加して頂ける様働きかけている。運営推進会議で報告を行い協力をして頂いている。		

グループホームのぞみ2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や状態を把握し一人ひとりを尊重した言葉掛けや対応を行うよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の団欒やコミュニケーションを密にとりスタッフ間での情報交換を常に行ないながら、利用者の心身の状態の把握に努め利用者それぞれに選択の場を提供し自己決定できるような声掛けをこころ掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居相談時やらい所時などにご家族から生活状態を教えて頂いたり、日々の観察やコミュニケーションから本人の希望を感じ取り出来るだけ希望にそった生活を送っていただくよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望やご家族より馴染みの衣類を持ってきて頂いたり、外出、イベント時は服を選んでいただき、着物などを着る入居者や化粧をする女性の方もいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今までの食事の習慣や嗜好味付けなどの確認を行い、おいしく食事を摂取して頂けるよう心掛けている。一緒に準備や調理を行い利用者とスタッフが一緒に食卓にて食事を摂取するよう心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事量、水分量の確認に努めている。食事内容に関しては栄養バランスの取れた食事を提供してバランスの取れた食事を提供し、個々の身体状況に合わせ、刻み、とろみ、おかゆ、小盛などで対応し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや定期的な義歯の洗浄をし清潔保持に努めている。また、口腔内の異常には歯科受診や、往診にて対応している。		

グループホームのぞみ2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状態の把握を行なっている。状態に合わせた誘導を行い、トイレにて気持ちよく排泄して頂けるよう支援している。また失敗時は本人の自尊心を傷つけないよう配慮しながら清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認を行い便秘にならないよう運動を行なっている。水、牛乳、野菜、食物繊維の食べ物等、排便しやすい飲食物を摂取していただいているも排便が出づらいようなら薬等で調整を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日午後が入浴の時間になっているが、入浴の時間は一人ひとり入居者の希望に合わせて心地よく入浴していただけるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人や家族から生活習慣を教えていただき、睡眠時間の把握を行なうと共に使い慣れた寝具やパジャマなどを持参していただき、不眠の場合は話を傾聴し安心、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に与薬一覧表を作成し確認を行なっている。入居者の方その時の状況に合わせて錠剤や粉末等にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族から生活歴や得意なことを教えて頂いたり日々の生活の中から観察し一人ひとりの状態に合わせてそれぞれ役割作業を行なって頂いている。外出希望がある方には外出や町内会の出し物、散歩など気晴らしができるよう支援している。		



グループホームのぞみ2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出されたり、スタッフとドライブに行かれたり、地元の観光地へ行ったりと楽しんでいただけるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持している入居者はいないが、本人より購入の訴えがあったときは、本人が支払いできるように見守りし購入するよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えがあったときは家族に電話をし、本人に会話をしていただいている。手紙も本人に書いていただき、自由に連絡が取れるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や日当たりなど自由に調整できるよう配慮している。居室、トイレなど確認し掃除している。また入居者と貼り絵を作成し季節感のあるものを壁に掲載している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは独りになるところは無いが、居室が個室となっているため、独りになりたいときは居室へ戻られる。リビングにはソファや食卓、座敷とあり入居者が自由に座れるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用するものは家族に持ってきていただき使用されている。本人が使用していたもののため、自分の部屋と認識ができ落ち着いた生活ができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、浴室、階段に手すりを設置している。浴室には滑り止めを設置し、自立の方も介助の方も入れるようになっている。トイレは2種類あり大きなスペースのあるトイレには車椅子でも出入りしやすくなっている。		